

日常会話における性役割を内包する言葉かけの 探索的研究

○吉岡真梨子・井上弥
(広島大学大学院教育学研究科)

問題と目的

言葉かけに関する研究は、教師や保護者から児童・生徒へのほめや叱りについて取りあげているものが大多数である(青木 2009, 武内 1995 など)。しかしながら、教師や保護者に比べ、同等の立場にあると考えられる友人が送り手である場合、ほめや叱りに限定されない多様な言葉かけが生起しやすいと考えられる。加えて、思春期以降、友人が心理的居場所として機能するようになる(光元・岡本, 2010) ことから、重要な他者となる友人からの言葉かけは、思春期の子どもたちのその後の発達に大きな影響を与えうる。

近代以降、「男性は仕事、女性は家庭」という伝統的な性役割観は日本において根強く支持され、いまだに社会に浸透、継承されている。このことから、性役割形成段階である思春期以降の子どもたちの間で、日常的に生起する言葉かけの中にも、性役割が内包されている言葉かけが存在する可能性があるといえる。

本研究は、性役割形成段階から確立段階までに、どのような性役割を内包する言葉かけに触れているのか、大学生を対象として探索的に検討することで、性役割を内包する言葉かけが及ぼす影響についての予備的研究とする。

方法

参加者 大学院生 10 名 (男性 5 名, 女性 5 名)。

質問内容 言葉かけの内容及び場面 (いつ, 誰が誰に, どのような状況で) について, 以下の質問をもとに半構造化面接を行なった。「過去に友人との会話の中で, 性役割が含まれている言葉かけだと感じたものがあれば, 具体的にその内容及び場면을教えてください。自分が言ったものでも, 言われたもの, 聞いたものでも構いません。」

結果と考察

収集した言葉かけの内容と場面を組み合わせたデータを分類するため, まず大学院生 9 名 (男性 5 名, 女性 4 名) が, 収集した言葉かけを類似度により群分けした。次にそのデータを逆数変換

し, 距離行列としたものを用いて, クラスタ分析 (ward 法) を行なった。その結果, 6 クラスタに分類した場合に, 一定の解釈が可能であった。

Table 1 各クラスターにおける言葉かけの内容及び場面

クラスター	言葉かけの内容及び場面
C1	・同性の友人 (女) からしゃべり方やしぐさが「男っぽい」と言われた ・バイクやマニュアル車に乗っている同性の友人 (女) に「カッコいい」と言った
C2	・同性の友人 (女) からリアクションやしぐさに対して「女子っぽいね」と言われた ・女子からお弁当を自分 (男) で作ってきたのを見られて「女子力あるね」と言われた
C3	・中学生のとき伴奏をしたりしていたので「男の子なのにピアノができるなんてすごい」と言われた ・運動部のがっちり系だけど甘党男子に対して女子が「甘党なんて意外」と言った ・主夫をしたいと言ったとき, 同性 (男) ・異性の友人から「え! ?」と言われた
C4	・男子が女子に「なんで料理できんの?」と言っていた ・体育祭で体操服を腕まくりなどしていると, 男子に「身だしなみに無頓着な女子はちょっと・・・」と言われた ・駆け込み乗車した自分の姿に, 男子から「女子のそういうところは見たくない」と言われた
C5	・異性の友人 (女) に「荷物持ってー, よろしくー」と言われる ・女子が「男の子はエスコートするのが当然」と言っていた
C6	・ハンカチやポケットティッシュを持っている女子に対し, 男子が「さすが女の子」と言っていた ・買い物をしている姿を見た男子から「そういうところみると女の子なんだねー」と言われた

Table 1 より, C1 には非伝統的な女性に対する言葉かけ, C2 には伝統的性役割についての固定観念にもとづいた感想的言葉かけ, C3 には伝統的性役割についての固定観念からくる意外性や驚き, C4 には非伝統的な行動に対する否定的言葉かけ, C5 には女性が男性に求める男性役割, C6 には男性が女性にイメージする女性役割という内容の言葉かけがみられた。

以上より, 性役割を内包する友人からの言葉かけには多様な表現がみられ, 潜在的に性役割形成へ影響をおよぼしている可能性が考えられる。